10月28日

2016年度商学部専門科目「経営史」
第４回「イギリス産業革命が生んだ自立分散型生産システムについて」

本日の目標

前回は，経営史とは現在の企業経営の課題を過去の事実から解明すること，今後具体的な生産システムの歴史的推移を検討すること，イギリスで産業革命が開始される前提条件について触れた。今回は，イギリスの生産システムがどのようなプロセスで推移したのか，そもそもイギリスではじまった生産システムはどのような意義を持つのかを検討する。

講義内容

前回の復習/本日の授業内容/次回の講義のキーワード

前回の復習

企業経営の多様化の現実

チャンドラー・パラダイムからの脱却…経営者の有する独自な経営構想力の反映

現代の企業経営の課題解決のための歴史的な分析へ

具体的な生産システムの歴史的検討へ…日本のモノづくりの行き詰まりの解明

イギリスにおける最初の産業革命の起こりの前提条件

私有財産制度と科学的合理主義の展開

※近年「産業革命はなかった」との議論あり，なぜそうした議論が生まれるのか

※そもそもイギリスに注目するのはなぜか

本日の授業内容

１キーワード/２イギリス産業革命の生んだ自立分散型生産システム/３イギリス自立分散型生産システムの評価/４参考文献

1　キーワード

大英帝国/三角貿易/経営的冒険家/社会的試行錯誤/自立分散型生産システム

2　イギリス産業革命の生んだ自立分散型生産システム

2.1　「産業革命はなかった」のか

従来の産業革命についての評価

(1)工業化に向けた「離陸」としての産業革命

⇒国内総生産成長率への注目

クラフツの異論

クラフツの研究による経済成長率の低さ（テキスト25頁「表2-1」；資料１，テキスト26頁「表2-2」；資料２）

資料１

表２－１ ▦英国の国内総生産成長率と人口増加率（1700-1831年）

（年率，%）

期　間	国内総生産（GDP）成長率諸推計			人口増加
	クラフツ＝ハーリィ（1992年）	クラフツ（1985年）	ディーン＝コール（1962年）	
1700-1760年	0.69	0.69	0.66	0.38
1760-1780年	0.64	0.70	0.65	0.69
1780-1801年	1.38	1.32	2.06	0.97
1801-1831年	1.90	1.97	3.06	1.45

出所）斎藤（2008），231頁。

出所）中瀬（2016）、25頁。

資料２

表２－２ ▦英国の国内総生産成長の要因分解（1700-1831年）

（年率，%）

期　間	国内総生産成長率	投入増加率		総要素生産性上昇率
		資本	労働	
1700-1760年	0.7	0.35	0.15	0.2
1760-1801年	1.0	0.5	0.4	0.1
1801-1831年	1.9	0.85	0.7	0.35

出所）斎藤（2008），234頁。

出所）中瀬（2016）、26 頁。

既知の「未知」化，産業革命の「相対化」

⇒事実としての「産業革命」をどのように考えるのか(DVD1)…プロセスの解明へ

2.2　産業革命以前のイギリス

産業革命につながる前提条件

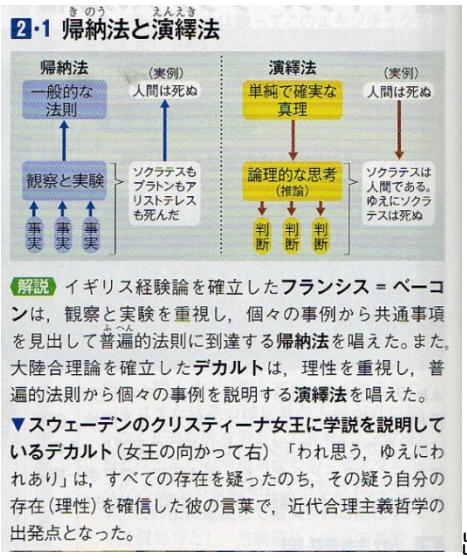
イギリスで最初に展開した私有財産制度と科学的合理主義

特に、皆既日食等の天文学での発見の衝撃

日本の例…「天地明察」改暦の儀

⇒帰納的方法論（資料３）の確立，知的ツールの獲得

資料３



出所）木村他監修（2014），154 頁。

⇒<u>(2)アイデアを生かせる経済活動の自由の保証</u>

清教徒革命（1649 年；1640-60 年）、名誉革命（1688 年）を通じた市民階級（ブルジョアジー）の台頭

アダムスミス『諸国民の富』（1776 年）

産業革命に先立つ大英帝国の成立の重要性

イギリス名誉革命後の国政改革

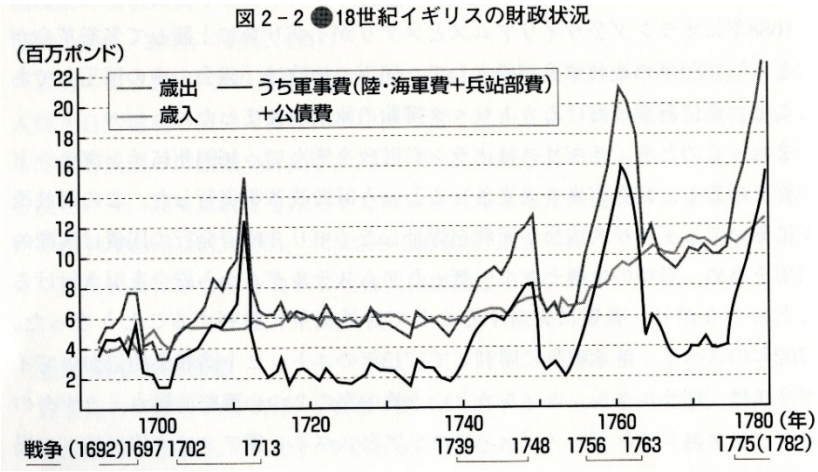
<u>(3)国としてのシステム構築</u>…オランダ財政学を生かした財政改革

イギリス議会によるイギリス国債の保証

→戦費調達（テキスト 30 頁図 2-2、資料４）で軍事的優位の達成

→世界制覇で植民地獲得

資料４



出所）中瀬（2016)、30 頁。

→生態環境上の問題の解決

17 世紀世界の課題

食糧，原料，エネルギー源としての，イギリス国内の植物性生産物への集中

食糧…三圃制の発展も土地は有限。

村の全耕地が三つの耕圃に分割され，一つは休閑地とされ，他の２耕圃にはそれぞれ春播き（大麦，エンバクなど）あるいは秋播き（小麦，ライムギなど）の穀物などが植え付けられ，これらが順次繰り返された）の実現（コトバンク，2016）

原料…羊毛のエサである牧草，木造船の材料

エネルギー…馬のエサの干し草，木炭

◎大英帝国の成立

⇒(4)植民地の獲得で食糧，原料の供給地，市場の獲得（テキスト 33 頁）

＋イギリス国内の石炭活用

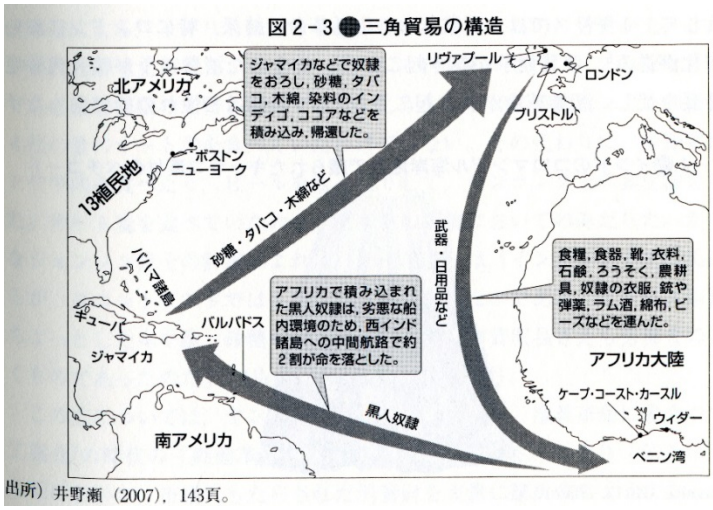
⇒労働力を工業へ供給可能に

…産業革命の準備

三角貿易による解決

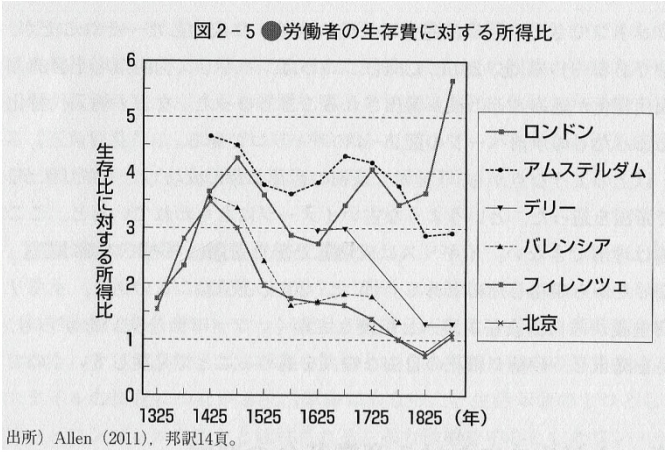
イギリス，アフリカ，西インド諸島間の貿易（テキスト 31 頁図 2-3；資料 5）

資料５



出所）中瀬（2016)、31 頁。

資料６



出所）中瀬（2016)，34 頁。

莫大な利益の獲得と商業革命，生活革命の進行

17 世紀後半以降の所得の向上（テキスト 34 頁図 2-5，資料 6）

アフタヌーン・ティーの始まり

高賃金化…機械の発明，導入の誘因

インドキャラコの人気をみて，輸入代替化を進めるものへ

※そもそも，奴隷貿易とは

重要な輸出品としての奴隷＝1500 万人の「強制移住」（資料 7）

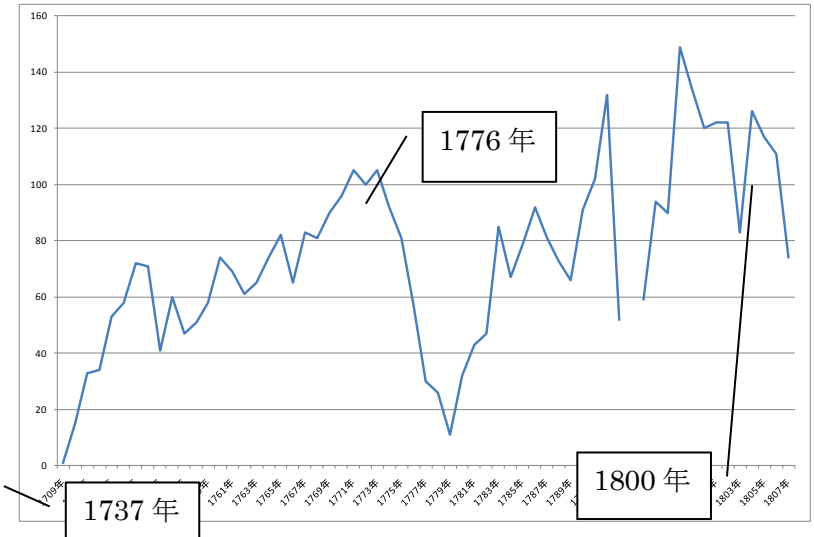
資料 7

フランス人が到来する以前，カナダのヒューロン族は，くり抜いた切り株に熱した石で沸かしたお湯を入れて調理していた。先住民たちは，フランス人毛皮商人のやかんに大いに感銘を受け，もっとも大きな鍋をつくった者がフランスの王に違いないと考えたほどであった。ヨーロッパ製のやかん，斧，布を買うために，先住民たちは代わりに何か売るものを必要とした。彼らが自分たちの特産品を見つけたとき，彼らはそれらを輸出向けに生産するために年間の労働時間を増大させた。北米地域では，その製品は毛皮であった。1680 年頃，ミクマク族のある人物はフランスのフランシスコ会士に次のような冗談を語った。/「じつのところ，兄弟よ，ビーバーはあらゆることを完璧にするのだ。ビーバーはわれわれにやかん，斧，剣，ナイフをつくり，われわれに大地を耕す手間をかけずに飲み物と食べ物とを与えてくれるのだ」/西アフリカ諸国では地中海世界とアラブ世界に金を輸出したが，16 世紀にそれよりもはるかに重要な輸出品が現れた。奴隷である。アメリカの砂糖経済は大規模な労働需要を生んだが，労働者を外部から購入することがその需要をもっとも安価に満たし得た。1526 年，新民をキリスト教に改宗させようとしたコンゴのアフリカ人王アルフォンソ 1 世は，ポルトガル王ジョアン 3 世につぎのような不満を述べている。「われわれの臣民の多くは貴殿の臣民がわが王国にもたらしたポルトガル商品を熱心に求めている。節度を知らぬ欲を満たすために，われわれ臣民は他の自由な黒人の臣民仲間を捕え」沿岸部で彼らを奴隷商人に「売らねばならぬのだ」と。（Allen（2011），邦訳 132-3 頁）

奴隷船貿易の推移（資料 8）

資料 8

リヴァプールからアフリカに向かった奴隷船数の推移



出所）Liverpool(2007).

注）1776 年から 83 年までの急減はアメリカ独立戦争の影響、1790 年から 92 年の増加はフランス革命の影響でフランスからの出港分を吸収。1794 年はデータがなし。

※特に，紅茶に重要な砂糖の供給地への労働力

→イギリス議会内における西インド諸島の砂糖プランテーション地主の強い勢力の存在

対するイギリスのウィルバーフォースらの反対運動

※ある名曲との関わり（DVD2）

⑸イギリス自由主義への移行

自由競争による砂糖価格の値下げ

奴隷貿易禁止法（1807 年），奴隷制度廃止法（1833 年）へ

2.3　イギリスにおける産業革命の進展

輸入代替工業化

機械化による繊維工業の発展

飛び杼による織布増産→綿糸不足⇒紡織機の発明（テキスト 36 頁，DVD3）

人力から水力へ

安価な石炭を活用する蒸気機関の発明へ…エネルギー革命（テキスト 35 頁）

⑹経営的冒険家の登場と活躍

経営的冒険家の登場とその試行錯誤

たとえば，ボウルトン＝ウォット商会（1775 年設立）

ボウルトン（バーミンガム出身）はグラスゴー大学から来たウォットと連携

親の代からのバックル製造業から蒸気ポンプの製造へ

⑺さまざまな熟練の統一と試行錯誤の繰り返し（テキスト 37 頁）

産業革命という社会的試行錯誤が工場制生産体制へ

既存の社会的な制度によるサポート

①生産過程

生産現場における，⑻内部請負制（テキスト 39 頁）

企業外部における分業の広がり

小規模生産，手労働（テキスト 41 頁図 2-12；資料 9），労働者への危険の押しつけ

資料 9

図 2-12●バーミンガムの銃身生産の様子

注）銃身の溶接（右）と研磨（左）

出所）Griffin（2010），p.102.

出所）中瀬（2016），41 頁。

②流通面の整備

専門的な流通業者の活躍…多様な需要への対応

⇒市況変動への迅速な対応、危険の回避

＝⑼市場からの遮断（テキスト 42 頁）

例外：一部の大企業（ウエッジウッド）にみられた流通革新

王室、貴族への売り込み⇒日用品の販売拡大へ

③金融面からのサポート

商業の発展の影響

為替手形の決済、割引の円滑化による資金の供給

シティの存在の大きさ

工業金融面の充実

敷地、建物、生産設備等の活用

3　イギリス自立分散型生産システムに対する評価

3.1　社会的な試行錯誤の中での成立

産業間，地域間の差異⇒クラフツの異論へ

3.2　現在でも存在する重要な生産システム

(10)市場の「気まぐれ」への柔軟な対応　…現代のイタリアモデル

価値循環の実現

企業を中心とする資本循環：コストをかけて生産し，販売で資本の回収

地域を中心とする価値循環：生産主体の立地の継続と地域内部での生産完結による価値蓄積

…地域創生という現代的な課題

なぜ，イギリスで大量生産，大量販売体制は成立しなかったのか

①新技術採用にあたっての躊躇…新技術開発における経験主義への「盲信」

大量生産，大量販売体制に求められる高度な計画性

②経営者の社会的地位の低さと「ジェントルマン」という究極の目標の存在

③イギリス工場制生産の性格

綿工業，製鉄業の工業素材を中核

イギリスを含む欧州市場の有する特徴

…多様な需要，相互補完，差別化（テキスト 48-49 頁）

参考文献

中瀬哲史（2016）『エッセンシャル経営史』中央経済社

Robert C. Allen (2011) Global Economic History: A Very Short Introduction, Oxford,: Oxford University Press （グローバル経済史研究会訳『なぜ豊かな国と貧しい国が生まれたのか』NTT 出版，2012 年）

Liverpool(2007)，" Slave ships that left the port of Liverpool.doc"、 http://www.lmu.livjm.ac.uk/lhol/、2009/05/26

シネマトゥディ（2011）「映画『アメイジング・グレイス』予告編」http://www.youtube.com/watch?v=YLLbx8QclDo，2014/05/02

NHK 高校講座「世界史『産業革命と社会問題』」http://www.nhk.or.jp/kokokoza/tv/sekaishi/archive/chapter027.html

次回のキーワード

アメリカ独立戦争/大量生産・大量販売体制/大衆市場/互換性部品/垂直統合型生産システム